

## 会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（6月定例会）会議録
開催日時	平成27年6月15日（月曜日）午後2時から4時まで
開催場所	保谷庁舎3階 会議室
出席者	委員：須永議長、内田副議長、岩崎委員、川崎委員、木下委員、操野委員、沼本委員、服部委員、原委員、森田委員、矢野委員 事務局：岡本課長、岡本係長、神田主査
議題	議題1 今後の活動について 議題2 その他
配布資料	資料1 平成27年度東京都市町村社会教育員連絡協議会 資料2 第1回役員会・拡大役員会資料 資料3 ニュースレター ナンバー17
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>・平成27年5月定例会議の会議録を承認する。</p> <p><b>議題1 今後の活動について</b></p> <p>議長： 今後の活動について、委員の方に意見を伺いたい。</p> <p>委員： 平成25年6月の「社会教育施策の今後のあり方について（提言）」に今後の社会教育の方向性が包含されていると思う。それをベースにして、地域生涯学習事業について、例えば文化財と連動させた事業のありかたなど具体的な検討をしていければと考えている。</p> <p>委員： 地域生涯学習事業は、人づくりや地域の活性化に向け有意義な事業だと思う。提言内容をさらに深め、具体的に検討し、今後の方向性を打ち出せばよいと思う。</p> <p>委員： 社会教育委員は事業実践の場を持っていない。今後は、テーマを絞り込んで実践に取り組めればよいと思った。一つのテーマとしておもしろいのが、「健康づくり」である。西東京市は健康都市の宣言もしており、このテーマで社会教育として何か出来ないか。以前、社会教育委員の大会で、スポーツクラブが活動しているうちに顔見知りになり仲が良くなって、地域の掃除をしたり、お祭りに参加するなど、まちづくり、絆づく</p>	

りに繋がったという報告があった。社会教育といわないまでもいろいろ取り組めると思う。

委員：

検討の中で、地域の実情をいろいろと議論したが、地域をみると市民はいろいろな活動をしようとしている。そういった活動をサポート出来るようなことがあればよいと思う。今年度、新たな動きとして、市民会館・中央図書館・田無公民館の合築に向けた検討に関して、社会教育委員の意見や情報を得て、懇談会に反映出来ればと思う。

○委員：

最近の施設は建物のデザインがいいと人が集まるといった事があるようだ。これからの公共施設は、機能面の充実とともに、施設の居心地の良さも重要視されてきていると思う。

委員：

これまでは提言という形で西東京市の社会教育の考え方について理論づけをしてきた。これからは社会教育委員の活動として実証的研究ができればと考える。循環型の学習社会の創造についても会議の中で話し合っただけで、実証的に実践はしていない。理論だけではなく、それをどう生かせるのか、実践していくことも大事ではないか。

委員：

社会教育委員は有識者の方が多く、いろいろなことを勉強している方がおられるので、高度な事を求めてしまうこともあったのではないかと感じた。市民は勉強している人ばかりではないので、もっといろいろな市民の声を聴いて拾いあげていかないと、議論が市民ニーズから離れていくのではないかと思う。

○委員：

地域生涯学習事業については関心のあるテーマだが、行政として地域生涯学習事業に入り込んで、リードできる組織がないといつまでも課題は解決されないような気がする。

委員：

今期関わった中で一番大きかったのは、組織改正に向けた検討だったと思う。議論する中では、組織を変えることが目的ではなく、こういうことをやりたい、そのためのあるべき姿としてこういう組織にしたらどうかと提言したが、十分な組織改正とはならなかったと感じている。出した提言をこのままにはせず、どこかの連携が不足なのか、市民の声とどう違っているのかを検証しながら、今回の組織改正を受け何が出来るか、引き続き考えてみたいと思う。

委員：

提言の内容を具体化することに取り組めば、市民のニーズに応えることになるのではないかと。学習情報が必要だと議論をしても、市民には届かないが、地域生涯学習事業をやるのにどう進めていけばよいかを具体的に提案したり、情報を集めて講師を紹介するなど、具体的な動きをつくれれば、社会教育をわかってもらうことが出来ると思う。

○委員：

この会議は、市民として地域で活動していることを生かしたり、ここで学んだことを地域の方たちに還元したりできる場だと感じている。今回の都市社連協の会長市として「循環型地域学習社会の構築」を交流大会のテーマとして提案したが、西東京市の実態を掘り下げて話し合っていくと、会長市としてこのテーマへ私たち自身の理解も深まると思う。

委員：

今年の6月1日から自転車の交通規則が変わったが、地域の方からこの機会に自転車の交通安全教室を開催して欲しいという要望があり、事業を企画し実施した。社会教育委員になって、図書館、公民館などについても勉強させていただき、自分の活動を広げることができた。これからも地域の要望を受け、少しでも形にしていければと思っている。

委員：

市民の求める社会教育は何かということを考えていきたいと思う。教科書的にいうと社会教育は意図的教育であるので、成人の教育には向かないという議論がある。意図的教育だということから、青少年の健全育成においては、青少年が現実の社会とつながっていくためには社会教育的な働きかけが重要視されてきており、学校の社会教育化、社会教育の学校化などいわれ学社連携として取り組まれてきている。一方、成人はどうかというと、生涯学習という言葉になると、自分で主体的、自発的に学習できる人たちが中心という発想があり、社会教育の意図的な教育とは矛盾するという考え方がある。一方で、社会的に必要とされる学習機会とか、自発的に学習しづらい方々や学習にお金をかけられない方々への学習支援とか、そういう学習に対しては社会教育が有効であるといえる。そういった学習のためには、やはり公民館という場が大事だという議論が出てきている。都市社連協の交流大会に向けて、西東京市の社会教育はこんな機能を地域で果たしているといった取組事例を青少年の場合と成人の場合に分けて丁寧に集め、紹介することもできるのではないかと。

委員：

西東京市の場合は、スポーツ振興や文化振興の所管が市長部局に移ったこともあり、社会教育行政から抜けているように思う。他市ではスポーツによる地域づくりを社会教育委員の会議で取り上げて、意見をまとめているところもある。社会教育としては、スポーツや文化振興の視点も外せないのではないだろうか。

委員：

これからの社会教育は、社会福祉の分野とも連携して動いていけないかと考えてい

る。社会福祉の事業は生活の役にたっている部分があり、学びと行動の循環型のサイクルも、日常的に福祉の場面では行われている事だと思う。これからの社会教育も福祉と一緒にやることで、より社会教育の可能性を見いだせるのではないか。今の社会を考えると、社会教育事業に福祉的な視点は欠かせないと感じている。

○委員：

社会教育として地域の学校に対する支援を考える場合、昔遊びといった内容だけではなく、戦争体験者に戦争体験を子供たちに語ってもらうような事業提案や支援に取り組むことも大切ではないか。また、18歳からの選挙権についても、選挙権を持つ者として知らなければならないことを学習する機会を提供するなど、社会教育として関わっていくことも必要だろう。

委員：

社会教育委員は諮問機関ということで、事業を実施する機会を持たない。最近の行政では、地域課題解決に向けて、市民と一緒にになって共に働く協働という流れが主流になっているように思う。一緒にになってやっという考え方が出てくれば、活動の幅も広がるのではないか。

委員：

社会教育委員が、市民の立場になって考えられているのだろうか。何か一つのテーマをもって事業を実施し、市民の考え方を肌で感じることも必要ではないのか。実際にやることによって、社会教育委員の力量も上がっていき、市民の意見を聞く機会を得て、実践事例も集めることが出来るのではないか。外に出ていくことも大事だと思う。

委員：

昨年の関東甲信越静研究大会で、地域に若者がいないということで、社会教育委員が、率先して居場所を作り上げていき、地元で若者を呼び戻すという取り組みをやっているという事例発表があった。

○委員：

何かテーマを決めて、西東京市全体として、公民館運営審議会委員や図書館協議会委員、さらには公民館や図書館など広く呼び掛けて、一つのことに向けて一緒に取り組んでみましょうと言えるのは社会教育委員ではないだろうか。

委員：

そのような取り組みを通して、社会教育委員の自覚を高め、役割も明確になっていくということがあるだろう。

○議長：

次回また引き続き検討したい。

## 議題2 その他

### 1 市民会館・中央図書館・田無公民館合築複合化整備について

(事務局より、前回会議報告以降の状況について報告)

- ・市民会館、中央図書館、田無公民館の合築複合化整備について、6月議会において質問があった。質問内容としては、館の利用者に丁寧に説明していただきたい、合築の施設のコンセプトはどのようなか等であった。
- ・それについて、市長部局から、館の利用者の懇談会などの機会を利用し、館の利用者には丁寧に説明をしていきたい、また、施設のコンセプトについても、今後設置される懇談会等で検討していくという説明がなされた。
- ・教育委員会からは、図書館、公民館のそれぞれの運営審議会の方に、どのように進められているか丁寧に説明をしていきたい、という説明がなされた。
- ・合築を検討する懇談会については、7月中に第1回会議を開催する予定で担当課が準備を進めている。
- ・進捗状況については、社会教育委員の皆様にも情報提供をしてまいりたい。

## 2 社連協役員会 (5月28日) 報告

(事務局より、配布資料1に沿って報告)

(議長より、補足説明)

- ・全国社会教育委員連合の総会で、社会教育委員連合の課題について説明された。資料1にあるように「全国社会教育委員連合のこれからを考える」という報告書案をまとめておられるので、ぜひお読みいただき、皆さんがどう考えるかご意見を聞かせて欲しいということだった。
- ・都市社連協の第1回の役員会で、5つのブロックの研修会に、他ブロックから参加できないか各ブロック幹事市に伺った。その結果、参加者が増えると会場の確保の問題が出てくるのではないかという意見もあったが、否定をされることはなく、各ブロックで、検討をしていただくことになった。
- ・関東甲信越静社会教育委員連絡協議会の第1回理事会で、群馬県から全国大会と関東甲信越静研究大会の開催ローテーションが提案された。東京都で開催となった場合、主体がどこになるかなど都市社連協だけでは決められないので、提案内容を持ちかえって、東京都とも調整しながら検討することとした。

## 3 西東京市文化財保存・活用計画策定委員会 (5月27日) の報告

・矢野委員より報告

・5月27日(水曜日)に第1回会議が開かれた。次回は7月29日(水曜日)予定。次回から実質的な検討に入ると思う。

・課長あいさつ

・この2年間の任期中、研修会への参加や調査研究など、積極的に取り組んでいただき、教育委員会からの依頼事項に対してご提言を頂きましてありがとうございました。頂いた提言をぜひ今後の社会教育行政に生かしていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○議長：

以上で本日の社会教育委員の会議（6月定例会）は終了する。

以上